

平成25年度2月開催
産学連携事業「社会スタディの場」の開催結果

- I. 開催日時：平成26年2月14日（金）13：30～17：00
- II. 場所：株式会社ディスコ 神楽坂 HCスタジオ 東京都新宿区下宮比町2-12
- III. 参加者：応募者230名、小論文審査により合格144名、最終参加者82名
- IV. 開催内容の報告

1. 参加者について

- ・ 当初予定100名の募集に対して230名の応募があり、最終的には雪のため35名、病気等で27名が欠席し82名となった。参加者の構成は、大学1年生48%、2年生52%、男性68%、女性32%、学部別では経済学部19%、工学部15%、メディアコミュニケーション11%であった。
- ・ 小論文は未来への目標をそれぞれ掲げており、応募者の意欲の高さがうかがえた。
- ・ 小論文の選考は産学連携推進プロジェクト委員会の先生6名で審査し、10点評価で5.5以上とした。

2. 有識者からの情報提供について

さまざまな分野で解のない問題に取り組むことにワクワクするような興味を持ち続けることが肝要であることを示唆した。その際、有識者が体験した具体的な事例を通じて固定観念にとらわれず、失敗をおそれないでチャレンジする意欲や気概が大事である。

これからの未来社会は学生たちにより創られていくことになるので、失敗を積み重ねる中で新しい価値創造にあきらめず取り組んで欲しい。

その手段として例えばビッグデータなどによる情報活用技術、ソーシャルネットなどを駆使した情報通信技術が不可欠となる。これらの技術について得意にならなくてもいいが、苦手意識だけは持たないよう学びを続けて欲しいなど、イノベーションの原動力としての情報通信技術活用の重要性について学生に分かりやすく情報提供ができた。

3. 参加者の反応

情報提供を受けた後、気づきを働きかけるため質問を求めたところ、大半の学生から197件もの質問があった。意外と批判的に捉える学生が多く見られ、有識者が感心する意見も多々あった。参加した学生以上に社会スタディの実施について有識者側が意義を認識し、今後の展開に大きな期待を持たれた。

4. 気づきの整理と発展

3名一組のグループを27組程構成し、「ICTを活用して未来社会にどのように向き合うか」について個々の学生がイメージする考えや夢を互いに紹介させた。どのグループも熱心に話し込み、熱気が伝わってくるほどで、学生一人ひとりに何等かの自信を持たせることができたように見受けられた。

5. 総括

初めての試みで心配したが、終わってみると大学の授業とは違って学生が積極的に学びに参画していた。主体性を引き出すためのオープン教育として一つの素晴らしい事例になるのではないかと。今後も是非事業を続けていき、大学と産業界の連携による新しい人材育成支援の形態が期待できそうである。

V. 「未来を切り拓く志を支援する社会スタディの場」の参加者の内容

開催日：平成26年2月14日（金）
場 所：(株)ディスコHCスタジオ

◆応募者総数 230名
小論文審査合格者 144名 62%

※ 論文審査で144名を合格としたが、予定変更、体調不良等で参加できない旨連絡のあった27名を除く117名の参加を予定したが、当日大雪のため交通機関の乱れ等で35名が欠席、最終参加者は82名となった。

◆当日参加者総数 82名

◆男女別
男性 56名 68%
女性 26名 32%

◆学年別
1年生 39名 48%
2年生 43名 52%

◆学部別
経済学部 16 20%
工学部 12 15%
メディアコミュニケーション 9 11%
社会システム科学部 4 5%
情報学部 4 5%
外国語 4 5%
教養学部 3 4%
応用バイオ 2 2%
理工学部 2 2%
その他 26 32%
合計 82 100%

◆大学別参加人数

大学名	人数
江戸川大学	8
東洋大学	7
法政大学	6
創価大学	5
神奈川工科大学	5
千葉工業大学	4
日本大学	3
麗澤大学	3
早稲田大学	2
関東学院大学	2
東京理科大学	2
フェリス学院大学	2
玉川大学	2
工学院大学	2
国際基督教大学	2
埼玉大学	2
実践女子大学	2
芝浦工業大学	2
青山学院大学	2
東京都市大	2
山口東京理科大学	2
桜美林大学	1
神奈川大学	1
東京医科歯科大学	1
明治大学	1
北里大学	1
昭和女子大学	1
上智大学	1
大東文化大学	1
東京女子大学	1
東京大学	1
日本女子大学	1
日本福祉大学	1
白梅学園大学	1
文教大学	1
東京医療保健大学	1
合 計	82

VI. プログラム概要

- | | | |
|---|--------------------------|-------------------------|
| ① | グローバルでのコミュニケーションインフラへの挑戦 | LINE株式会社 代表取締役社長 森川 亮 氏 |
| ② | イノベーションに求められる学び | 東京大学大学院 情報学環長 教授 須藤 修 氏 |
| ③ | 利用者視点での新たな価値創造とICT | 富士通株式会社 知的財産権本部 西川 仁 氏 |
| ④ | 若者はグローバル時代にどう対処すべきか | 慶應義塾大学 環境情報学部長 村井 純 氏 |
| ⑤ | 気づきの働きかけ | 参加有識者全員 |
| ⑥ | 気づきの整理と発展 グループディスカッション | 参加学生全員 |

VI. 当日の風景

会場全体風景



LINE株式会社 森川社長



東京大学大学院 須藤先生



富士通株式会社 西川氏



慶應義塾大学 村井先生



3名一組でグループディスカッション

